

1次関数のグラフの特徴は？

比例のグラフに似ているんだけど…

比例の式 $y = ax$ に $+b$ がついたもの

じゃあグラフはどうなる？

1次関数 $y = ax + b$ のグラフは
 $y = ax$ のグラフを y 軸の
正の方向に b だけ
平行移動させた直線である。

簡単に言うと…

比例のグラフを $+b$ だけ
ずらせばいい！！

1次関数 $y = ax + b$ において…

定数 b の部分は $x = 0$ のときの y の値であり、グラフが y 軸と交わる点 $(0, b)$ の y 座標になっている。この b のことを、1次関数のグラフの**切片**という。

1次関数 $y = ax + b$ において…

また、1次関数 $y = ax + b$ の
グラフの傾きぐあいは a が
どのような値をとるかによって
決まることから a をそのグラフの
傾きという。

整理してみよう！

$$y = ax + b$$

傾き

切片